

事例研究報告

特別支援学校小学部児童への
スムーズに活動を進めるための
指導実践

～着替え・体育・給食指導を通じて～

児童の実態

○小学部児童 知的障がい・自閉症

○日常生活に関する実態

- ・文字のスケジュールを活用している。
- ・日常的に使う簡単な言語指示（机を運ぶ、椅子に座る等）を理解して、行動することができる。
- ・トイレに行く時は「おしっこをします」「うんちをします」と明記した文章カードを確認して、言葉で報告することができる。
- ・課題や活動を終える度にご褒美として本児が好きな菓子（するめいか、グミ）を渡す。ご褒美を楽しみに集中して取り組むことができる。

児童の実態

○気になる行動に関する実態①

【場面1】登校時の着替え・朝の会

- ・登校の着替えの時に、段ボールで囲った着替えコーナーから出て、床に寝転ぶことがある。女性教員が近づいてくると蹴ることが多い。
- ・身体を起こされると喜んでいるように見受けられる。相手にしないと女性教員に自分から近づき蹴ることもある。

【場面2】朝の体育

- ・授業準備やクラスメイトの活動時の待ち時間に、教室内に寝転んだり、教員を蹴ったりすることがある。教員を追いかけて蹴ることもある。

児童の実態

○気になる行動に関する実態②

【場面3】給食の片付け

- ・女性教員と一緒に給食後の食器の片付けのため教室を出ると、急に走り出し、玄関ホールにあるセーフティーマットに飛び込むように寝転ぶことがある。
- ・セーフティーマットから降りるよう身体的支援を行い、再度片付けの活動を行うよう指さし等で促していたが、身体を起こされると喜んでいるように見受けられた。
- ・4月頃から女性教員が近づくと課題を止めて床へ寝転んだり、蹴ったりと逸脱する行動が目立つことが多かった。

保護者の願い

身の周りのことを自分でできるように
なってほしい。

教員の願い

床へ寝転んだり，教員を蹴ったりしなくても，
次の活動へ移行することができるようになって
ほしい。

アドバイザーからの助言

- ① グラフの作成は、気になる行動が多く現れる場面で担当者（男性，女性）毎に分けてグラフを作成する。教員の考えが伝わるグラフにすることが大切である。
- ② 支援方法は、気になる行動が高頻度で起こる場合（特に朝の活動，朝の体育，給食の片付け）は、エラーレスで活動ができるよう、教員が先回りをしたり、環境設定を見直し改善する。
- ③ 寝転ぶ，走り出すきっかけを作らないように，教員の立ち位置や行動を予測しての先回りの精度を上げる。

助言を受けての見直し

<助言前>

- ① 活動中に床へ寝転んだり蹴ったりした時は、身体的支援で身体を起こす。
- ② 終わりが分かりやすい課題（パズル等）を使用する。
- ③ 主に男子教員が対応する。
- ④ 口頭で約束し、1つの活動が終わった後に約束を守ることができたらご褒美を渡す。

<助言後>

- ① 気になる行動のスイッチが入らないよう（エラーレス）にする。
- ② 教員の立ち位置を近づける。
- ③ 本児の行動のパターンを教員同士で共通理解する。
- ④ 視覚的にルールを確認して、守ることができたら活動を終える度に即時強化を行う。

指導の手続き

【1】登校時の着替え・朝の会

〈ベースライン〉

- ・ 本児との距離を1m以上離れて見守る。
- ・ 休み時間にパズル等の課題を入れる。
- ・ 主に男性教員がつく。

〈介入1〉

- ・ 本児の近くに付き、次の行動を予測して指導を行う。
- ・ ドアのすぐ外に立ち、着替えが終わるまで逸脱できない状態にする。
- ・ 着替える前に、イラストや文字で示したルール表とタイマーを提示する。ルールを守ることができたら、残りの時間好きな遊びをすることができ、ご褒美がもらえることを本児に伝える。

指導の手続き

【2】朝の体育

〈ベースライン〉

- ・人数配置が1人で、ルールなし。
- ・本児との距離を1m以上離れて見守る。
- ・寝転んだり蹴ったりした時に、身体的支援で身体を起こす。

〈介入1〉

- ・気になる行動が起こりやすい状況，対応方法について教員間で話し合い，共通理解を図る。
- ・活動前にルール表を提示する。1つの活動毎にルールを守ることができたら，即時強化（ご褒美を渡す）を行う。
- ・本児以外の児童を指導する教員を別に配置する。

〈介入2〉

- ・1つの活動毎にルールを守ることができたら即時強化を行う。
- ・本児以外の児童を指導する教員を別に配置する。

指導の手続き

【3】給食の片付け

〈ベースライン〉

- ・主に男性教員が指導に当たる。
- ・本児の1m後方か横を歩く。

〈介入1〉

- ・本児の1m以内の距離から、次の行動を予測して指導を行う。
- ・後片付けの際、走り出さないように前方から対応する。
- ・本児が片付け前に返却カートの位置を変え、走り出すことができないよう物理的に環境調整を行う。

記録方法と記録

【記録方法】

朝の着替え，朝の体育，給食の片付けのグラフを担当教員毎（男性，女性）に分けて作成を行う。

【記録】 助言前：ベースライン

助言後：介入1，介入2，

● . . . 寝転ぶ

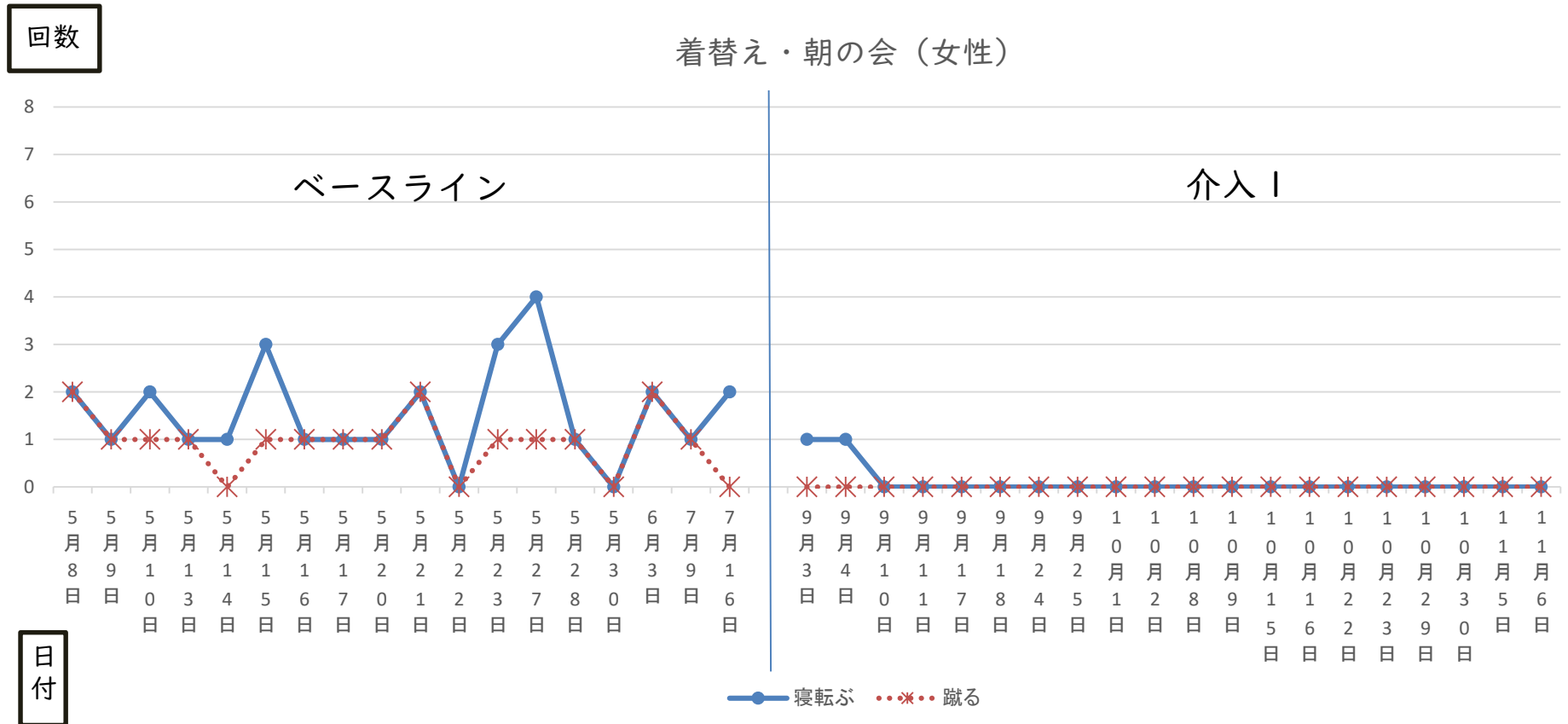
* . . . 蹴る

回数 . . . 1日に起こった気になる行動
(寝転ぶ，蹴る) の回数

※ 0回が5日以上続いた場合を達成とする。

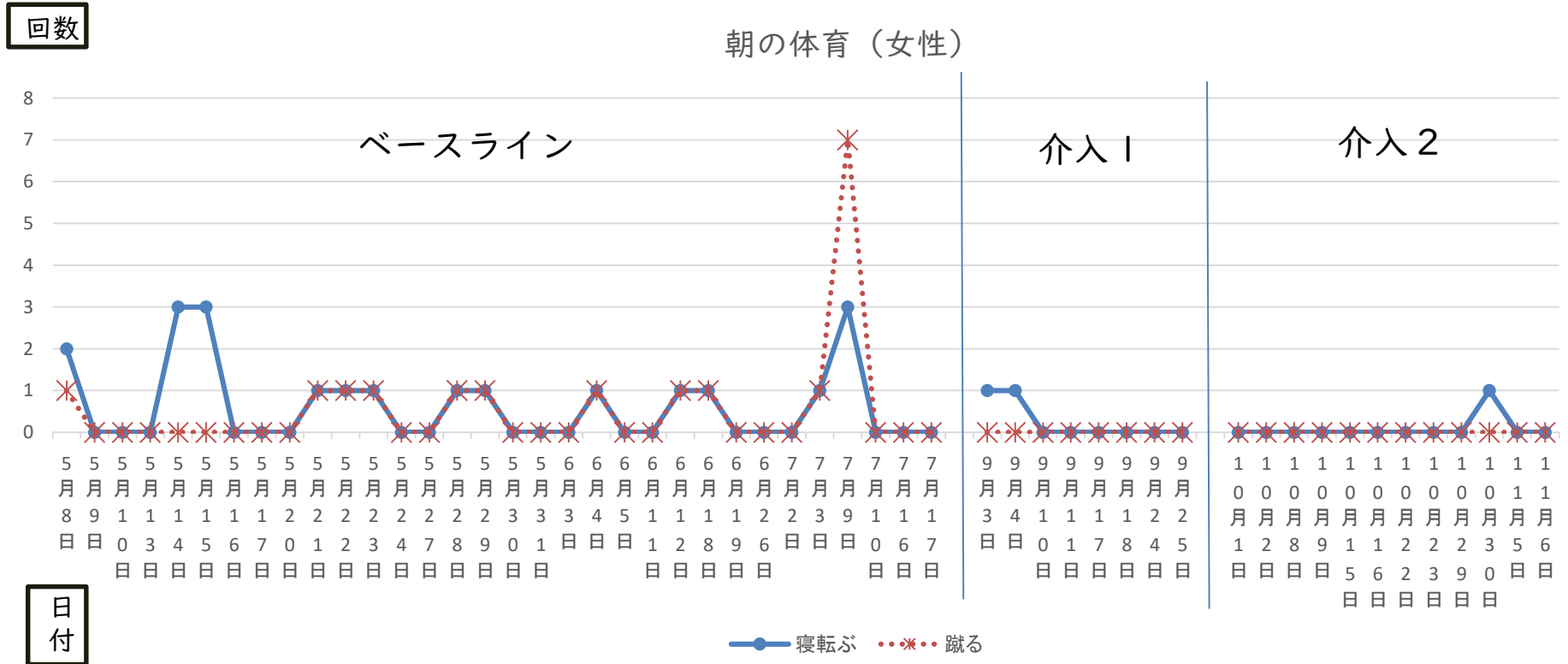
指導の成果①-2

【1】 登校時の着替え・朝の会（女性）
（本児が寝転ぶ・蹴った回数）



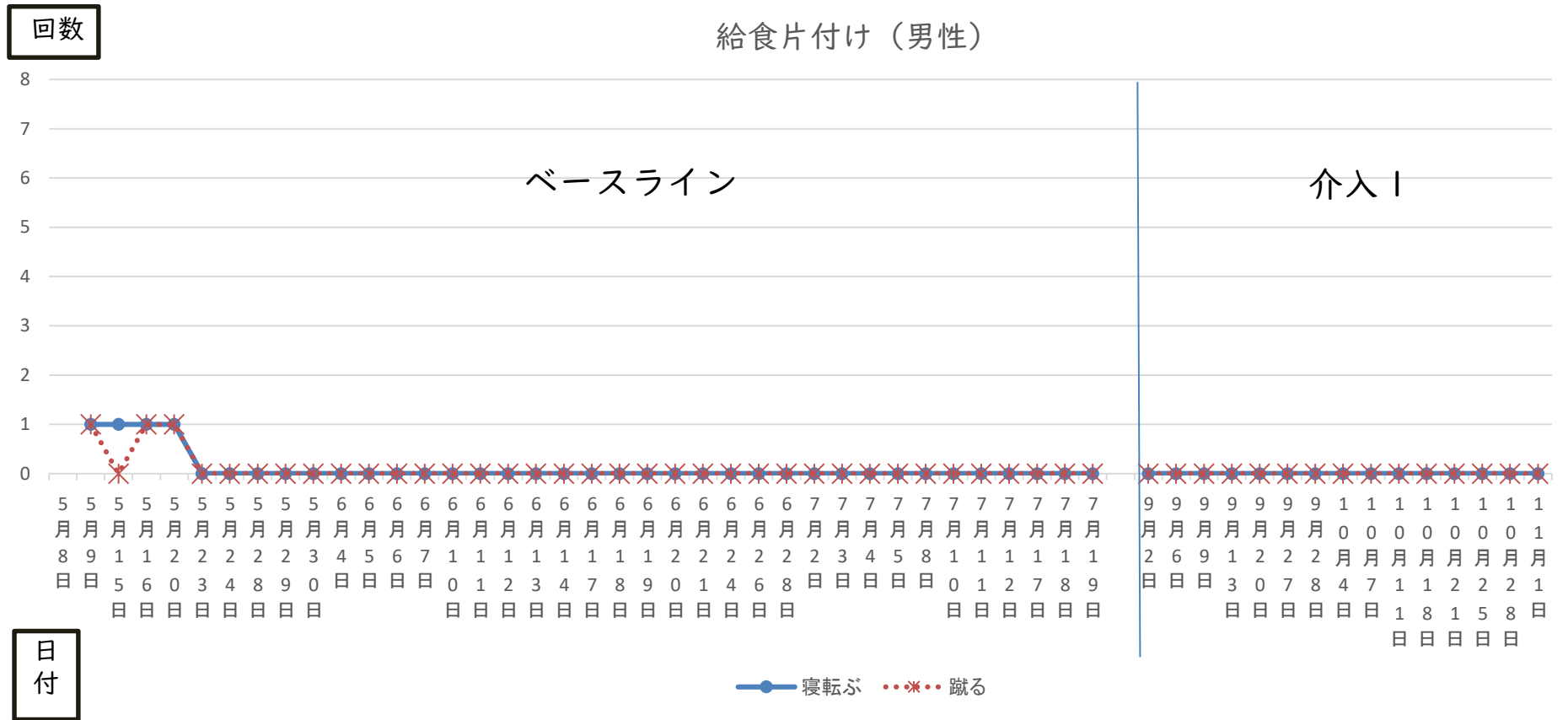
指導の成果②-2

【2】朝の体育（女性）（本児が寝転ぶ・蹴った回数）



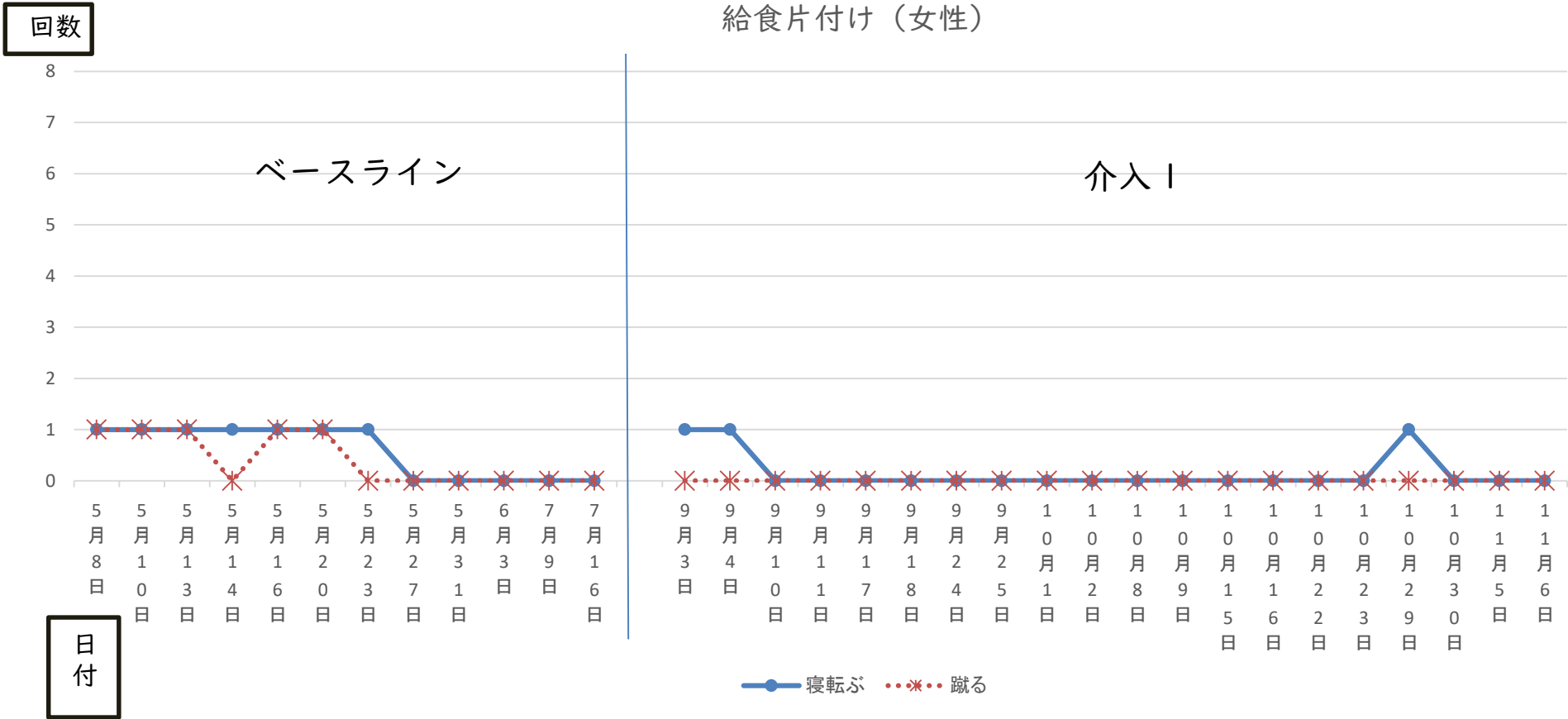
指導の成果③ーⅠ

【3】給食の片付け（男性）（本児が寝転ぶ・蹴った回数）



指導の成果③-2

【3】給食の片付け（女性）（本児が寝転ぶ・蹴った回数）



指導の成果



- 気になる行動が起きやすい状況や場所を予測して，本児を近距離から見守ることで，取り組むべき活動に取り組めるようになった。
- ご褒美をもらえることで，適切な行動をとることができるようになった。
- 本児の活動範囲を半径1mぐらいで遂行できるような環境設定をすることで，集中して活動に取り組めるようになった。

ここが成功のポイント



○実態を知ること，環境を整えることは本児にとって落ち着いて活動に取り組むための入り口だった！

→本児の実態を把握し，近距離から対応することで，気になる行動を抑制することができた。

→活動範囲を狭め，物理的な環境を整えることで，落ち着いて，集中して活動に取り組むことができた。

→即時強化により，望ましい行動の定着につながった。